

神奈川台場跡

旧街道をはずれ、滝の川に沿って海に向かい、J-R貨物線に突きあたる辺りが、神奈川台場跡です。開港当時大砲が置かれ、港を警備していました。

江戸幕府は伊予松山藩に建設を命じ、勝海舟の設計で海防砲台を構築しました。当時の台場は面積約八千坪の海に突き出た扇形で、約七万両の費用と一年の歳月を費やして万延元年（一八六〇）に完成さ



「神奈川台場図」横浜開港資料館所蔵

れました。明治三十二年（一八九九）に廃止されるまで礼砲用として使われましたが、埋め立てが進み、現在では石垣の一部のみ見ることが出来ます。

成仏寺

慶運寺のすぐ近くに成仏寺があります。開港当時、成仏寺はアメリカ人宣教師の宿舎に充てられました。

へボンは本堂に、ブラウンは庫裏に住んだといわれています。へボンが友人に宛てた手紙の中に、このことが書かれています。それによると、広い本堂を襖で仕切り、大小八つばかりの部屋をつくったとあります。その結果、ずいぶん住みよくなった、広い庭も美しく気に入っている、と書かれています。

また、ブラウンは聖書や賛美歌の翻訳に尽力した人です。



慶運寺

滝の川に沿って山側に進むと、慶運寺前に出ます。開港当時、この寺はフランス領事館に充てられました。

浦島丘にあった観福寿寺が慶応年間の大火で焼失したため、浦島伝説にかかわる記念物がこの寺にもたらされました。それ以来、慶運寺は「浦島寺」とも呼ばれています。浦島太郎が竜宮城に行った時、乙姫様からいただいたという菩薩像などが伝わっている、といわれています。

神奈川地区センター

成仏寺から東へ向かうと、ほど近い場所に神奈川地区センターがあります。

歴史の道のルートは、この建物の前を通り、さらに東の金蔵院へと続いています。

地区センター前の広場には、かつて滝ノ橋のたもとにあった「高札場」が、往時をしのいで復原されています。

また、この広場の床面には、「神奈川宿歴史の道」のシンボルマークとなった「青海波」がデザインされています。

